

資料 4

地方創生推進交付金活用事業

(1) ご当地アニメーションを活用した移住定住促進プロジェクト

重要業績評価指標 (KPI)		基準値 平成26年	平成29年	平成30年	目標値 令和元年
20歳～24歳の転出超過人口	年度目標値	146人	126人	100人	70人
	実績値		55人	158人	172人
1	これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組	<p>転出超過の多い若年層に対し訴求効果の高いアニメに着目し、本市のPRを行うため、ご当地アニメ「サクラノチカイ」を制作し、そのコンテンツを活用した様々な取組を実施した。</p> <p>総務省住民基本台帳人口移動報告によれば、平成27年は134人、平成28年は112人、平成29年は55人と、転出超過ではあるが少しずつ超過数が減少していた状態だったが、平成30年は158人、令和元年は172人と増加してしまった。</p> <p>本当の効果が現れるためには息の長い取組が必要であり、今後とも若年層に響く取組になるよう工夫を重ね継続的に実施する。</p>			
	担当課	総合政策課			
重要業績評価指標 (KPI)		基準値	平成29年度	平成30年度	目標値 令和元年度
関連グッズ等の売上げ	年度目標値	40千円	1,340千円	3,340千円	6,300千円
	実績値		2,050千円	3,006千円	1,445千円
2	これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組	<p>市観光協会と連携し様々な関連グッズを開発するとともに、販売促進に向けた東京圏をはじめとする各種イベント等に出展し、PRも兼ねた販売を戦略的に実施したが、新規ファン獲得には至らず、また、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり令和元年度は売上を大幅に減らした。</p> <p>令和2年度からは「サクラノチカイ」ファンクラブを立上げ、ファンの定着を目指したい。また、市外、県外のファンが本市に訪れるイベント等を企画して、売上の増加を促すとともに、経済効果が市内店舗等にも波及するよう、協力店舗の拡大を図るなど、さらなる動きにつなげていきたい。</p>			
	担当課	総合政策課			
重要業績評価指標 (KPI)		基準値	平成29年度	平成30年度	目標値 令和元年度
聖地巡礼スタンプラリー参加者数	年度目標値	-	3,000人	6,000人	9,000人
	実績値		500人	2,060人	4,050人
3	これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組	<p>ご当地アニメ「サクラノチカイ」に登場するスポットを巡る聖地巡礼スタンプラリーを実施することで、アニメを通して本市を知り、訪れたファンを実際に市内各所に誘導する取組である。通常のスタンプラリーに加え、JAF（一般財団法人 日本自動車連盟）と連携したJAFドライブスタンプラリーを開催し、多くの方に参加いただき、参加者は昨年度からおよそ2倍に増えたが、目標達成には至らなかった。今後は「サクラノチカイ」の新規ファン獲得に向けた取り組み強化や、既存のファンに飽きられない新たな取り組みを仕掛けていきたい。</p>			
	担当課	総合政策課			
重要業績評価指標 (KPI)		基準値	平成29年度	平成30年度	目標値 令和元年度
休日の滞在人口率 (NTTドコモによる2h以上の滞在者÷国調人口 休日の14時で比較)	年度目標値	93%	98%	103%	108%
	実績値		93%	93%	93%
4	これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組	<p>本市はベッドタウンの性格が強く、観光などで本市を訪れる人よりもお出かけで市外に出ていく人が多い。また、道の駅しもつけには年間220万人前後の人が立ち寄るが、そこから市内に周遊する方は少ないため、2時間以上の滞在につながっていない現状が読み取れる。</p> <p>アニメをひとつの切り口に、市内の様々なスポットを循環できる仕組みづくりができれば、滞在時間を増やし滞在人口を上げることができる。</p> <p>観光自転車にキャラクターをデザインした痛チャリの導入や、アニメ声優と巡る聖地巡礼ツアーなどを実施し、周遊を誘引する仕掛けづくりを行っていく。</p>			
	担当課	総合政策課			

地方創生推進交付金活用事業

(2) 広域公共交通でつなぐ地域の宝（人・観光・健康・仕事）1市2町連携プロジェクト事業

重要業績評価指標 (KPI)		基準値 平成30年	令和元年度	令和2年度	目標値 令和3年度
1	広域連携バス (壬生町ー下野市ー上三川町) 利用者数	年度目標値	3,500人	10,800人	13,400人
	実績値	0人	4,280人		
これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組		令和元年10月から実証運行を開始した広域連携バスであるが、1年目の目標値は達成しているものの、利用者数（輸送量ベース）が壬生町ー下野市を繋ぐ路線に集中していることが判明した。そのため、下野市ー上三川町の利用促進を図りつつ、全体の利用者数を増加させるため、地域に根付いた生活路線として定期的な乗車による収入と観光客利用による不定期な乗車による収入の両輪により初めて、持続可能な地域の公共交通として継続できることを考慮し、利用者の意見や利用実態の分析を行い、より利用が見込める路線の見直しを行う。			
担当課	安全安心課				
重要業績評価指標 (KPI)		基準値	令和元年度	令和2年度	目標値 令和3年度
2	1市2町観光入込客数	年度目標値	6,273,443人	6,280,643人	6,289,943人
	実績値	6,268,343人 (下野市2,363,209人)	6,108,685人 (下野市2,313,409人)		
これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組		道の駅しもつけの来場者が天候不良等の影響を受け、前年より大幅に減少してしまった。しかし、天平の丘公園を活用した新たな夏のイベントである「しもつけ燈桜会」などを創出したことで、市全体の観光入込客数は前年比微減になった。今後は、道の駅しもつけに地域交流施設がオープンしたことや、下野市の歴史的特性である文化財を活用した「東の飛鳥」プロジェクトの一環として、「VRデータ」を活用した市内周遊観光を促し、観光客の増加に繋げて行く。			
担当課	商工観光課				
重要業績評価指標 (KPI)		基準値	令和元年度	令和2年度	目標値 令和3年度
3	健康マイレージ参加者数	年度目標値	1,244人	1,334人	1,444人
	実績値	1,153人 (下野市326人)	1,279人 (下野市424人)		
これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組		市民にがん検診受診と健康習慣の定着を促すことを目的とした事業であり、普及のために集団検診受診者やポイント対象事業参加者全員にポイントカードを配布する、また事業自体の魅力向上のため景品の内容を充実させる等の取組を行ってきた。令和元年度は基準年に比べ需要の見込まれる景品が追加されたこと、本事業がより市民に浸透したことから参加人数増となった。令和2年度に関しては新型コロナウイルスによる外出自粛の影響が継続し、参加者減が見込まれるが、事業内容の変更や各種SNS等での周知により事業の普及に取り組むと同時に、効果の検証も行っていきたい。			
担当課	健康増進課				
重要業績評価指標 (KPI)		基準値	令和元年度	令和2年度	目標値 令和3年度
4	1市2町の東京圏からの 転入者数	年度目標値	900人	930人	960人
	実績値	870人 (下野市450人)	931人 (下野市463人)		
これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組		平成27年度より、下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略で「東京圏からの新しいひとの流れをつくる」を基本目標に、快適に住み続けられる環境づくりを進めてきた。また、シティプロモーションサイト「プチハピしもつけ」を開設し、動画コンテンツを充実させるなど、下野市の認知活動を行ってきた。1市2町の合計では61名増と目標を達成することができたが、下野市では転入者数が13名増と、上三川町、壬生町に比べて増加数は少なかった。今後は、SNSなど情報発信コンテンツをさらに充実させ、来訪者を増やすことで移住・定住者の獲得につなげたい。			
担当課	総合政策課				

地方創生推進交付金活用事業

(3) 6次産業化施設ゆうがおパークの活性化事業

重要業績評価指標 (KPI)		基準値 平成30年	令和元年度	令和2年度	目標値 令和3年度
1	ゆうがおパーク売上高	88,000千円	91,000千円	97,000千円	110,000千円
	年度目標値		96,972千円		
これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組 担当課 農政課		中小企業診断士に年間を通じた経営診断を委託したことにより、経営に対する課題が明確化され経営改善に向けた提言が示された。 このような中、独自に経営改善すべき点を見定め対応したことにより令和元年度目標値を達成することが出来た。 今後は提言を踏まえ経営改善すべき項目ごとにPDCAサイクルを定め積極的に売上高の向上に努める。			
重要業績評価指標 (KPI)		基準値	令和元年度	令和2年度	目標値 令和3年度
2	ゆうがおパーク来客数	100,000人	105,000人	110,000人	120,000人
	年度目標値		108,418人		
これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組 担当課 農政課		売上高同様、中小企業診断士に年間を通じた経営診断を委託したことにより、来客数増加に対する課題が明確化され、集客に向けた提言が示された。 このような中、独自に集客を図るためのイベント等を実施したことなどにより令和元年度目標値を達成することが出来た。 今後は提言を踏まえ改善すべき項目ごとにPDCAサイクルを定め来客数増加に努める。			
重要業績評価指標 (KPI)		基準値	令和元年度	令和2年度	目標値 令和3年度
3	収穫体験等の体験活動参加人数	3,000人	3,200人	3,500人	4,000人
	年度目標値		3,322人		
これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組 担当課 農政課		田植、稲刈り、野菜の種まき・収穫、餅つき体験、収穫感謝祭など幅広い世代が参加できる農業体験、イベントを実施することにより、都市住民・地域住民との交流を図るとともに、リピーターになってもらうような工夫を行い来客数の増加に繋げた。 また、新たに「かんびょうまつり」を実施したことにより集客力のアップが図られ目標値を達成することが出来た。 今後も新たな農業体験・イベントを実施することにより来客数の増加を目指す。			
重要業績評価指標 (KPI)		基準値	令和元年度	令和2年度	目標値 令和3年度
4	6次産業化商品等販売額 (一般加工品含む)	10,000千円	10,300千円	10,800千円	11,800千円
	年度目標値		11,837千円		
これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組 担当課 農政課		かんびょうをはじめとした地元特産品や農産物を活用し弁当、総菜や加工品を製造販売し6次産業化を積極的に推進してきた。 その結果、令和元年度目標値を達成することができた。 今後、経営診断で提言された新たな「店の顔」となる商品開発及び既存商品の更なる品質向上をおこなう上で消費者ニーズ・消費者視線に立って取組むことにより、ブランド化・高付加価値を図り販売額の増加に繋げる。			

地方創生拠点整備交付金

(1) 「夜明け前」リノベーション事業

重要業績評価指標 (KPI)			基準値 平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	目標値 令和2年度
1	夜明け前利用者数	年度目標値	7,000人	—	—	12,000人	18,000人	22,800人
		実績値		—	—	30,841人	32,543人	
	これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組	平成30年4月9日に「10picnic tables」として古民家カフェの営業を開始した。開業2年目になり、知名度も上がり花まつり期間中(3・4月)はもとより、今まで人が訪れなかった季節にも賑わいを創出している。元年度は、平地林の中も含め公園全体を使用したマルシェイベントや、夏の大規模イベントとして「しもつけ燈桜会」を開催し公園の魅力を発信した。今後もこうしたイベントを通して、引き続き歴史や自然を生かした公園のPR・集客に努めていく。						
	担当課	商工観光課						
重要業績評価指標 (KPI)			基準値 平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	目標値 令和2年度
2	古民家カフェの売上げ	年度目標値	0円	—	—	950千円	2,375千円	4,085千円
		実績値		—	—	1,091千円	2,164千円	
	これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組	平成30年4月9日に「10picnic tables」として古民家カフェの営業を開始した。開業2年目になり、花まつり期間中(4月)の売上げは5,090,305円と盛況であった。メイン商品はお弁当セットとドリンクだが、繁忙期以外にはパスタやプレートランチなど、飽きない商品展開を行っている。また、親子連れのためにキッズメニューも充実させた。今後も来客に繋がるイベントの開催や季節・地産地消メニューなど、付加価値のある商品を提供していく。						
	担当課	商工観光課						
重要業績評価指標 (KPI)			基準値 平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値 令和2年度
3	しもつけ風土記の丘資料館 入館者数	年度目標値	18,671人	19,500人	20,800人	23,130人	25,630人	28,430人
		実績値		20,592人	21,121人	21,927人	19,212人	
	これまでの取組と実績値の分析及び今後の取組	コロナウィルスの感染拡大に伴う臨時休館等の影響で令和2年3月は来館者が減少した。今後は、新しい生活様式にあった見学やイベントの実施方法についての工夫を行いつつ、東の飛鳥プロジェクトの推進や古民家カフェ周辺でのイベントを通して公園全体の活性化を図っていく。						
	担当課	文化財課						

(2) グリムの館 施設整備事業

重要業績評価指標 (KPI)		基準値 平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	目標値 令和2年度
1	グリムの森・グリムの館の 来園者の増加数	114,281人	300人 (114,581人)	300人 (114,881人)	600人 (115,481人)	700人 (116,181人)	800人 (116,981人)
	実績値		9,463人 (123,744人)	14,375人 (138,119人)	19,404人 (157,523人)	△26,579人 (130,944人)	
	これまでの取組と実績値の分 析及び今後の取組	<p>(一財)グリムの里いしばしと多くの市民団体が協働し、「グリムの森イルミネーション」をはじめ様々な市民文化活動が活発に行われている。さらに民間愛好家によるコスプレイベントが開催され、県内有数の人気スポットとなっている。このことから、控室を増設し利用者の利便性向上を図ったところである。また、事業収益を向上させるため「お菓子の家」を新設、加えてマニアに人気の高いマンホールカードの配布を開始するなど、来園者の増加させる仕組み作りを図った。</p> <p>集客できる施設やイベント等の仕掛け作りができたことから、さらなる魅力の向上と固有の強みを持った集客施設により、一層の集客を図っていく。</p>					
担当課	生涯学習文化課						
重要業績評価指標 (KPI)		基準値 平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	目標値 令和2年度
2	グリムの館多目的ホール 稼働率	83%	84%	85%	86%	87%	88%
	実績値		83%	83%	85%	78%	
	これまでの取組と実績値の分 析及び今後の取組	<p>同敷地内にあるグリムの森・グリムの館と「お菓子の家」の相乗効果が現れるのは、これからのこととなるが、利用者の利便性の向上と文化振興等イベントの拠点となる施設ができたことで、ホールの稼働率の向上が見込まれる。今後とも相互に連携しながら、子どもから高齢者、ファミリー層にも親しみやすい仕掛けづくりを行っていく。</p>					
担当課	生涯学習文化課						
重要業績評価指標 (KPI)		基準値 平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	目標値 令和2年度
3	お菓子の家の売上高 (改築前は売店の売上げ)	592千円	622千円	722千円	4,722千円	5,000千円	5,500千円
	実績値		574千円	701千円	6,518千円	4,639千円	
	これまでの取組と実績値の分 析及び今後の取組	<p>平成28年度に交付決定を受け、平成29年度末に工事完了した。平成30年4月に「お菓子の家」としてオープンし営業を開始したところである。市民の文化交流の拠点であり、県内有数のコスプレの聖地でもあるグリムの森のポテンシャルを活用しながら、新たな魅力を生み出し、収益の向上につなげていく。</p>					
担当課	生涯学習文化課						

(3) 下野薬師寺歴史館 増改築事業

重要業績評価指標 (KPI)		基準値 平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値 令和2年度
1	下野薬師寺歴史館及び しもつけ風土記の丘資料館の 入館者数	21,000人	21,050人	21,250人	21,550人	21,850人	22,250人
	実績値		27,483人	29,773人	30,585人	25,785人	
	これまでの取組と実績値の分 析及び今後の取組	本市には国指定の史跡下野薬師寺跡・下野国分寺・尼寺をはじめとする数多くの文化財が存在しており、現在、これらを総合的に活用したまちづくり事業である「東の飛鳥プロジェクト」を推進している。プロジェクト推進の拠点施設として下野薬師寺歴史館・しもつけ風土記の丘資料館を位置付けており、しもつけ風土記の丘資料館については、資料館機能の充実及び重要文化財保管施設としての機能拡充を図るため、令和3年度オープンに向けてリニューアルを実施している。					
担当課	文化財課						
重要業績評価指標 (KPI)		基準値 平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値 令和2年度
2	下野薬師寺ボランティア会員 数 (平成29年度より薬師寺及び風土 記の丘資料館ボランティア会員 数)	40人	44人	46人	48人	50人	52人
	実績値		53人	77人	75人	75人	
	これまでの取組と実績値の分 析及び今後の取組	平成29年度から、下野薬師寺跡の見学者に対する解説等を行う薬師寺ボランティアに加え、市内全域の文化財を解説するためのガイドを養成するために「文化財観覧ガイドボランティア」養成講座を開催しており、毎年60名以上の受講申し込みがある。現在、本市が推進する文化財を総合的に活用したまちづくり事業である「東の飛鳥プロジェクト」を継続的に実施していくためには、市民との協働が必要であることから、今後も講座の開催や登録ボランティアの支援を行い、会員数の増加に努めていく。					
担当課	文化財課						
重要業績評価指標 (KPI)		基準値 平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	目標値 令和2年度
3	市バーチャルミュージアム 閲覧数	9,300件	10,000件	11,700件	14,400件	16,600件	18,100件
	実績値		13,853件	14,235件	14,129件	13,647件	
	これまでの取組と実績値の分 析及び今後の取組	現在、文化財等の発信・公開の手法の一つとしてデジタルコンテンツを用いた情報発信を推進している。本市が進める歴史資源のAR化に関してアンテナの高い層は、パソコン等の情報機器から情報を得ることが多いと考えられる。また、本市が推進する文化財を総合的に活用したまちづくり事業である「東の飛鳥プロジェクト」の情報発信機能の強化のため、バーチャルミュージアムの機能充実を図る。					
担当課	文化財課						